

- ーライフコースの実態と意識ー 中野英子・渡邊吉利（人口問題研究所）
3. 主として心理学における母性研究の立場から
ー「最近の子どもを愛せない母親」の研究からみえてくるものー
大日向 雅美（恵泉女学園大学）
4. ECの子育て支援政策との比較から 岩上 真珠（明星大学）

（高橋重郷記）

日本経済政策学会第51回大会

日本経済政策学会（会長：野尻武敏大阪学院大学教授）の第51回大会（準備委員長：斉藤昊愛知学院大学教授）が1994年5月28日（土）～29日（日）の二日間にわたって愛知県愛知郡日進町の愛知学院大学日進キャンパスで開かれた。今回は「日本の社会経済システムー新しいパラダイムの構築ー」がテーマとなっており、そのテーマの下に初日には共通論題報告・討論が行われ、二日目には準共通論題報告がなされた。また、二日目の自由論題報告 Session 7 として「労働市場」の部会が設けられ、以下の通り、人口関係の報告が行われた。

Session 7 「労働市場」

〈座長〉 丸谷+史（神戸大学）

- (1) 自然失業率の推定に関する試論——システム推定によるアプローチ

〈報告者〉 西村嘉夫（早稲田大学）

〈討論者〉 根津永二（名古屋市立大学）

- (2) 結婚・出産退職タイミングの規定要因とその政策的含意

〈報告者〉 小島 宏（人口問題研究所）

〈討論者〉 大淵 寛（中央大学）

- (3) 変質する日本的雇用慣行

〈報告者〉 吉田良生（朝日大学）

〈討論者〉 大橋勇雄（名古屋大学）

(1)の報告については失業問題の専門家である水野朝夫中央大学教授からやや厳しいコメントが出されたが、(2)と(3)の報告については指定討論者のコメントが的確だったこともあり、質疑応答が無難に終了した。このほか Session 8 として「地球環境と経済政策」という部会も設けられていたが、人口に直接関係する報告は行われなかった。

（小島 宏記）

比較家族史学会第25回研究大会

比較家族史学会第25回研究大会は、6月10日（金）～11日（土）の両日、青山学院大学において開催された。人口問題研究所からは、渡邊吉利、小島宏、西岡八郎の各技官が出席し討論に参加した。

研究報告は自由報告とテーマ報告に分かれて行われたが、今研究大会のテーマ報告は各国に於ける出生・死亡・婚姻等の身分登録制度であり、アメリカ、スイス・オーストリア、イギリス、ドイツにおける身分登録制度および韓国、中国元朝治下の戸籍制度について報告が行われ、日本については古代戸籍、宗門改帳および明治以降の近代戸籍制度と現状の戸籍制度について比較検討が行われた。

身分登録についての制度的検討とともに、イギリスに於ける教区簿冊（安元稔）や日本の宗門改帳の資料的性格（神谷智）および宗門改帳に基づく家族・世帯の分析事例（正岡寛司、藤見純子、嶋崎尚子）など多彩な報告がなされ、活発な議論が交わされた。

（渡邊吉利記）